



聴覚障害者の精神保健福祉を考える研修会2020
分科会3 「ひきこもり・ニートへの就労と生活支援」

「聴覚障害者のひきこもりへの対応」

赤畑 淳

(立教大学 コミュニティ福祉学部)

自己紹介

- 精神保健福祉士・社会福祉士。
- 東京都内の精神科病院でソーシャルワーカーとして約15年勤務。デイケア、外来、慢性期リハビリテーション病棟、救急・急性期病棟などを担当。
- 手話通訳者や聴覚障害者施設等との連携体制のなか、精神科を利用する聴覚障害者への支援を経験。
- 2011年より大学教員として精神保健福祉士養成教育に携わる。
- 主な著書「聴覚障害と精神障害を併せ持つ人への支援とコミュニケーション」（ミネルヴァ書房）

精神科病院における勤務経験から

- デイケアで出会ったAさん（50歳代前半・男性・ろう者）
- グループホームに入居中。
- デイケアプログラムで実施していた院内喫茶店グループに参加
- デイケアの全体ミーティング（週1回）には手話通訳者が参加



院内ひきこもり状態の長期入院者

- 慢性期リハビリ病棟で担当したBさん
（40歳代後半・男性・ろう者）
- 高齢者病棟からの転棟候補者
「大人しく全く問題はない人」という情報

何年も病棟内から出ることなく、院内でひきこもりの状態に以前は手話を使っていたようであったが、いまは手を動かすことはなく、人とのやりとりは必要最小限に指さしなどのジェスチャーのみ

ひきこもりの定義

様々な要因の結果として、社会的参加を回避し、原則的には6か月以上にわたって概ね家庭にとどまり続けている状態（他者と関わらない形での外出をしている場合も含む）

（厚生労働省「ひきこもりの評価・支援に関するガイドライン」より）

長期入院

社会的入院

「院内ひきこもり」とは…

治療上の要因以外で、病棟内外での諸活動への参加や院外への外出を回避し、原則的には6か月以上にわたって概ね病棟内にとどまり続け、他者との交流も行われていない状態

慢性期リハビリ病棟での取り組み

- Bさん（40歳代後半・男性・ろう者）転棟後
転棟後、手話通訳者が参加しているグループ参加への促し。
徐々に時間をかけて参加するようになる。
人との交流が増える。聴覚障害のある実習生とのやりとり。
表情も明るくなっていく。

<Aさんの入院中の様子>

長期入院歴あり。入院中、病棟内の隠れたところで、インスタントコーヒーをコップ1杯100円で患者さんに売って問題となったり、時々患者さんに暴力を振るうことがあり、「暴力的で問題のある人」として見られていた。

ひきこもり支援への示唆

言語・コミュニケーション保障

関係性を広げる支援

役割取得のための支援

対話を生み出すための
コミュニケーションの工夫